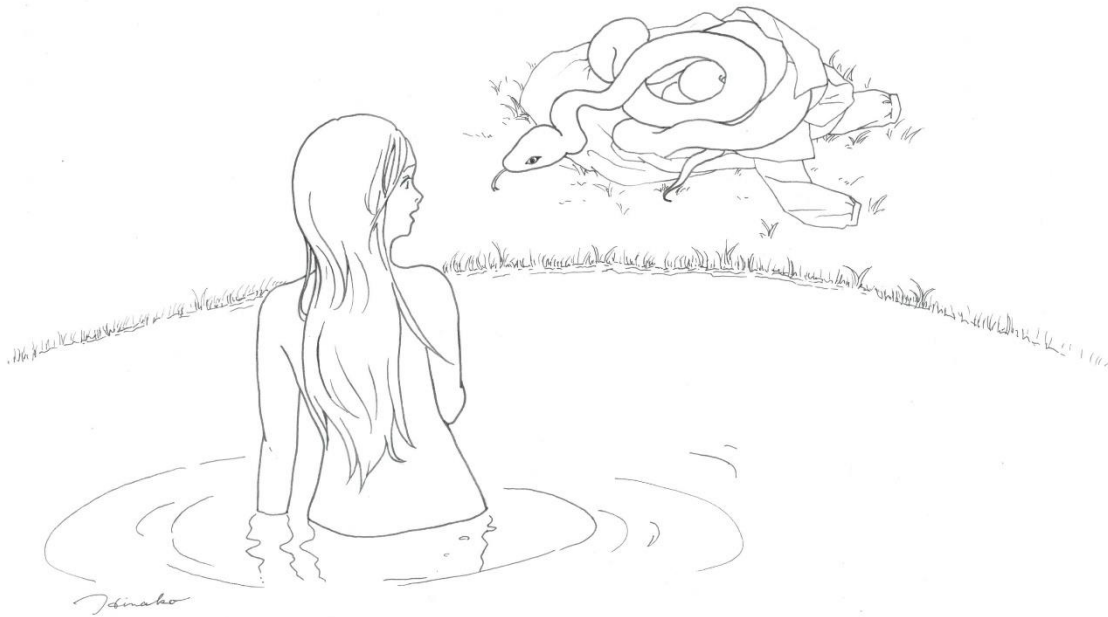


へび じょうおう
蛇の女王エグレ

むかしばなし
(リトアニアの昔話)



むかしむかし、おじいさんとおばあさんがいました。おじいさんとおばあさん
には ^{にん むすこ} 12人の息子と ^{にん むすめ} 3人の娘がいました。15人の兄弟の中で一番若かったのが、
^{いもうと} 妹のエグレでした。

ある日のことです。3人の姉妹は、^{にん しまい} 湖で泳いでいました。エグレは、^ぬ 脱いだ
^{ふく みずうみ} 服を湖のそばに置いていましたが、^{みずうみ あ} 湖から上がると、その服のそばに蛇が
いることに ^き 気がつきました。戸惑っているエグレに、^{へび にんげん} 蛇が人間の言葉で話しました。

^{おれ けっこん} 「俺と結婚するなら、^{ふく かえ} 服を返してやる」

エグレは、蛇となんか結婚したくありません。しかし、その恐ろしい蛇を見て、
どうすることもできなかつたので、蛇の言うことを聞きました。



3日後、何千匹もの蛇がエグレの家に来ました。エグレを連れて行くた
めです。エグレの家族は、エグレを蛇たちに渡すつもりはありません。そこで、
家族は、エグレの代わりに 鶏 や羊 を蛇に渡して、蛇をだまそうとしました。
蛇たちは、鶏 や羊 をエグレだと思って持って帰りましたが、その様子を見
ていたカッコウが蛇たちに本当のことを言ってしまいました。蛇たちは、たちま
ちエグレの家に戻ってきました。

「お前^{まえ}たちは、だましたな！」

と、蛇^{へび}たちが言^いいました。エグレの家族^{かぞく}はもう何^{なに}もできなくて、エグレを蛇^{へび}たちに渡^{わた}してしまいました。

エグレは蛇^{へび}に連れ^つられて、海^{うみ}までやってきました。エグレはずっと泣^ないていました。しかし、そこでエグレを待^まっていたものを見て、エグレは驚^{おどろ}きました。それは、恐^{おそ}ろしい蛇^{へび}ではなくて、立派^{りっぱ}な男^{おとこ}の人^{ひと}だったのです。彼^{かれ}は、蛇^{へび}の王様^{おうさま}のジルヴィナスです。エグレの服^{ふく}に隠^{かく}れていた恐^{おそ}ろしい蛇^{へび}は、今^{いま}は人間^{にんげん}の姿^{すがた}にかたち^{かたち}を変^かえていました。

ジルヴィナスは、エグレを海^{うみ}の中^{なか}のお城^{しろ}に連れ^つれていきました。ジルヴィナスはとても優^{やさ}しかったので、エグレは少^{すこ}しずつジルヴィナスに心^{こころ}を許^{ゆる}していきました。やがて二人^{ふたり}は、盛大^{せいたい}な結婚^{けっこん}式^{しき}をしました。そして、幸^{しあわ}せに暮^くらしました。

それから9年^{ねん}が経^たちました。

エグレとジルヴィナスの間^{あいだ}には、3人^{にん}の息子^{むすこ}と1人^{ひとり}の娘^{むすめ}が生まれました。3人^{にん}の息子^{むすこ}の名^な前は、ウオシス、ベルジャス、アージョラスで、一番^{いちばん}下^{した}の娘^{むすめ}はドレブレです。

ある日^ひ、子^こどもたちがエグレに言^いいました。

「お母^{かあ}さんの家族^{かぞく}はどこに居^あるの？会^あってみたいよ」

ジルヴィナスと暮^くらすようになってから、エグレは自分^{じぶん}の家族^{かぞく}のことをあまり思^{おも}い出^ださなくなっていました。しかし、子^こどもたちに両^{りょう}親^{しん}や兄^{きょう}弟^{だい}のことを聞^き

かれて、懐^{なつ}かしくなりました。そして、エグレは家^{かぞく}族^あに会いたくなくなりました。

「両^{りょうしん}親^{きょうだい}や兄^あ弟^あに会いたいの」

と、エグレはジルヴィナスに言^いいましたが、ジルヴィナスはそれを許^{ゆる}してくれませんでした。しかし、何^{なんど}度もエグレが頼^{たの}むので、ジルヴィナスは3つの条^{じょうけん}件^{けん}を出^だすことにしました。



「この3つの条件を成功させることができれば、家族に会いに行くことを許そう。1つは無限の糸を編むこと、2つ目は鉄の靴を履くこと、そして3つ目は道具を使わずにパンを焼くことだ」と、ジルヴィナスは言いました。

この3つの条件は、どれも無理なことでした。自分にはできないと思って、エグレは近くに住んでいた魔女に助けを求めました。すると魔女は、あっという間に3つの条件を叶えました。

エグレは子どもたちといっしょに海の中のお城を出て、エグレの故郷に向かいました。

「お父さん、お母さん、ただいま」

エグレは家に着くと、ドアを開けて言いました。

「エグレ・・・エグレじゃないか。信じられない！」

エグレの家族は、エグレが帰ってきたことをとても喜びました。しかし、喜びも束の間です。エグレがまた数日後にはジルヴィナスのところへ帰ることを知ると、がっかりしました。どうしてもエグレをジルヴィナスのところに帰したくない家族は、エグレが帰れないようにするために、ジルヴィナスを殺そうと考えました。

海のお城を出るときに、エグレと子どもたちはジルヴィナスから海のお城に戻るための呪文を聞いていました。その呪文を海岸で唱えると、ジルヴィナスが迎えに来るということでした。

そのことを知^しったエグレの父^{ちちおや}親は、エグレに知^しられないように、エグレの子^こどもたちから呪^{じゆもん}文^きを聞^きき出^だそうとしました。

「かわい^{まご}い孫^{まご}たちや、おじいちゃんに呪^{じゆもん}文^{おし}を教^{おし}えてくれないか」

エグレの父^{ちちおや}親は、やさしく言^いいました。しかし、子^こどもたちは何^{なに}も言^いいませんでした。

「おい、黙^{だま}ってないで、呪^{じゆもん}文^{おし}を教^{おし}えろ。呪^{じゆもん}文^いを言^いわないと、怖^{こわ}いことになるぞ」

エグレの父^{ちちおや}親は、だんだん怒^{おこ}ってきました。子^こどもたちは呪^{じゆもん}文^{おし}を教^{おし}えないようにな^いがりましたが、一^{いち}番^{ばん}下^{した}の女^{おんな}の子^このドレブレは怖^{こわ}くなって、とうとう呪^{じゆもん}文^{おし}を教^{おし}えてしまいました。

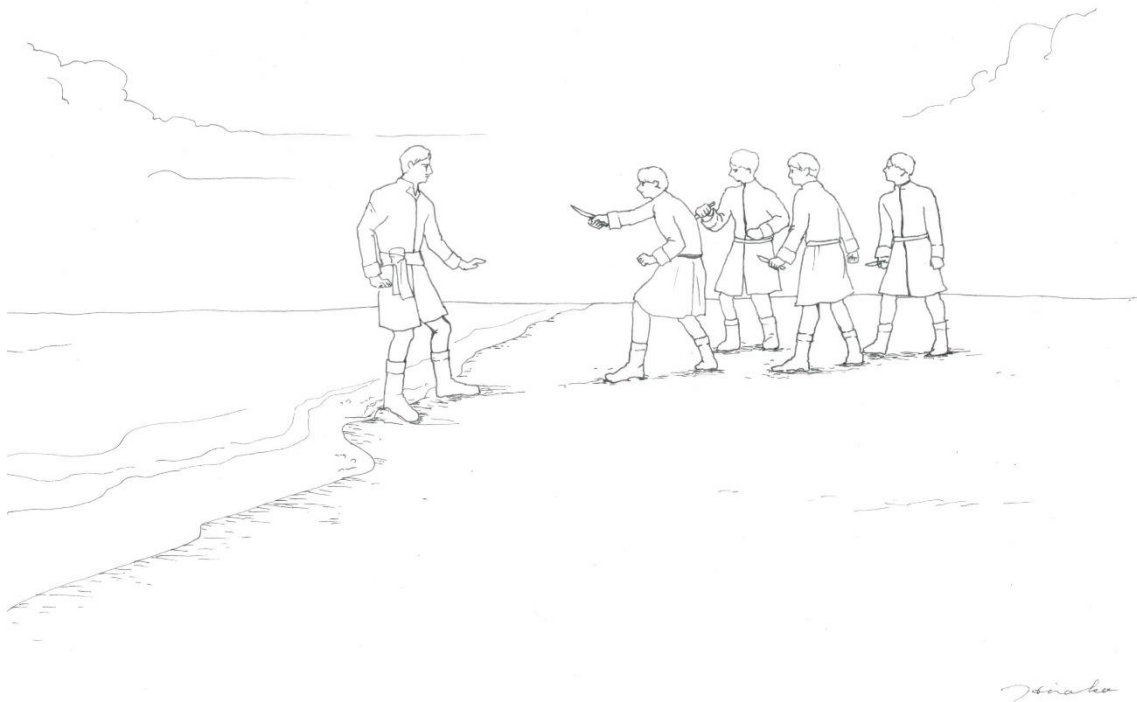
呪^{じゆもん}文^しを知^しったエグレの12人^{にん}の兄^{きょうだい}弟^{だい}たちは、すぐ^{すぐ}に海^{かい}岸^{がん}へ行^いきました。みんな手^てにはナイフ^もを持^もっています。海^{かい}岸^{がん}に着^つくと、彼^{かれ}らは海^{うみ}に向^むかって叫^{さけ}びました。

ジルヴィナス、ジルヴィナス

生^いきていれば、ミルク^{あわ}の泡^{なみ}の波^{うみ}とな^なって海^{うみ}に來^きておくれ

死^しんでいれば、血^ちの泡^{あわ}とな^なって私^{わたし}の^{ところ}に來^きておくれ

すると、海^{うみ}が鳴^なり、ミルク^{あわ}のよ^おうな泡^よが押^おし寄^よせて、ジルヴィナス^{すがた}が姿^{あらわ}を現^{あらわ}しました。



ジルヴィナスの^{すがた}姿^みを見ると、エグレの^{にん}12人の^{きょうだい}兄弟^{たち}たちは、いっせいにジルヴィナスに^{おそ}襲^{おそ}いかかりました。ジルヴィナスは、^{なに}何も^なできず^{ころ}に殺^{ころ}されてしまいました。

^{にん}12人の^{きょうだい}兄弟^{たち}は家に^{いえ}帰^{かえ}りましたが、エグレには^{なに}何も^い言^いいませんでした。

それから^{この}9日^かが経^たちました。エグレと^こ子ども^{かえ}たちが^ひ帰^ひる日^ひです。エグレは^{りょうしん}両親^{きょうだい}や^{わか}兄弟^つに^{うみ}別^{しる}れを^{つづ}告^{かい}げて、^{うみ}海^{しる}のお^{つづ}城^{かい}に^き続^きく^{うみ}海^む岸^むへ^む来^むました。エグレは^{うみ}海^むに向^むか^むって^{さけ}叫^{さけ}びました。

ジルヴィナス、ジルヴィナス

生きていれば、ミルクの泡の波となって海に来ておくれ

死んでいれば、血の泡となって私のところに来ておくれ

すると、海が鳴り、血のような真っ赤な波がエグレの方に流れてきました。エグレは驚き、そして、ジルヴィナスの身に何かあったのだと思いました。

そのとき、どこからかジルヴィナスの声が聞こえました。

「私はあなたの12人の兄弟に殺されてしまった。最愛の娘ドレブレが呪文を教えたから・・・」

それを聞いたエグレは、大声を出して泣きました。エグレはジルヴィナスのことをすっかり愛していたのです。

「なんてことをしたの！」

エグレは、子どもたちに言いました。そして、泣きながら子どもたちに呪いをかけてしまいました。その呪いで3人の息子たちは、トネリコ、白樺、樅の木に、娘のドレブレはアスペンの木になってしまいました。

そして最後にエグレは、自分をトウヒの木に変えてしまったということです。

<解説>

リトアニアには、蛇が出てくる昔話がたくさんあります。また、おじいさんとおばあさんの暮らしについての物語や、12人の兄弟や3人の兄弟が出てく

はなし どうぶつ はなし
る話、動物についての話がたくさんあります。

この昔話に出てくるエグレと子どもたちの名前は、リトアニア語の木の
名前と同じです。例えば、エグレはリトアニア語で「トウヒの木」という意味があ
ります。息子たちの名前のウオシスは「トネリコ (ash tree)」、ベルジャスは「白樺
(birch tree)、アージュラスは「樅 (oak tree)」、そして娘の名前のドレブレは「ア
スペン (aspen tree)」の木です。3人の息子たちの名前のトネリコ、白樺、樅は、
リトアニアでは3つの良質な木とされています。娘の名前のアスペンの木は、
「いつも風で震えている木」と言われています。父を裏切った娘の名前です。

(2947字)

(2020.5 Written by GELAZINYTE UGNE, VITKAUSKAS ALMANTAS,
RADZEVICIUS KAROLIS)

(Edited by Toru YOSHIKAWA)

(All pictures are drawn by Hinako FUJIMURA)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この
作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use
this work, please indicate the source as in the example above.